

特定非営利活動法人 緑地雑草科学研究所 2024年9月発行

ニュースレター 15号

目次

活動予告	1
活動報告	1
所属団体紹介	2
編集後記	3



秋の七草 カワラナデシコ(2024.9 京都)

活動予告

講演会開催案内：雑草管理に関する法規制（仮題）

2024年の講演会につきましては、昨年4月に改正・施行された植物防疫法および外来生物法を中心として、雑草管理に関する法規制をテーマとして以下のような内容で開催する予定です。詳細につきましては、決定次第ニュースレターやメールリングリストを通じてお知らせいたします。これらの法改正が緑地雑草の管理場面に今後どのような影響をも

たらしうるか、全ての関係者に知っていただきたい内容となりますので、ぜひご参加ください。

開催方法：Zoomによるオンライン開催

内容：雑草管理に関する法規制（仮題）

講師：黒川俊二氏

開催時期：11月11日（月）午後

活動報告

雑草インストラクター集合研修 IN 九州

9/4 福岡県八女郡広川町の(株)オーレック本社にて九州地域雑草インストラクター集合研修が開催されました。これは雑草インストラクター同士の交流の場を増やしてほしいとの声から開催された集合研修の第1回目になります。

当日は九州地域の雑草インストラクターを中心に6名の雑草インストラクターと伊藤幹二講師が参加しました。研修前にはオーレックさんの工場見学をさせていただき、普段は見られない除草機

械の製造工程を見学することができました。研修では参加者が現在抱えている課題を発表し、皆で意見を出し合う活発な意見交換ができました。

集合研修は今後、関東地域・中部地域・関西地域と開催していきます。これを機に雑草インストラクター同士の交流が活発化し雑草問題が少しでも解決していければと期待しております。

雑草インストラクター担当理事 宮崎 敏治



(株)オーレック本社にて記念撮影



集合研修の様子

 **会員投稿記事**

 **所属団体紹介**

京都大学農学部雑草学研究室 黒川俊二

京都大学農学部では、雑草管理とその基礎となる雑草そのものを研究および教育対象とする講座として、1974年4月に全国に先駆けて雑草学講座が設立され、今年2024年に設立50周年を迎えました。この50年の間に一度も「雑草」の表看板を下すことなく雑草問題に対する科学的対応の重要性を示し続け、日本の雑草学を牽引してきた研究室です。これまで、当NPO法人緑地雑草科学研究所の設立者でもあり現在も理事を務められている伊藤操子名誉教授を含め5名の教授が歴任してきました。

取り扱う研究課題は、種生物、生態、変異、適応、アレロパシー、防除・管理、除草剤科学、外来雑草など多岐にわたります。特に伊藤教授時代に行われたスギナ、ワルナスビ、セイタカアワダチソウ、ヨモギ、ヒルガオ、イタドリ、チガヤなどの難防除多年生雑草の生活様式、繁殖・再生機能の解明や公園やゴルフ場などに発生する芝地雑草の研究などでは、現在の緑地雑草管理の基盤となる重要な科学的知見が蓄積されてきました。最近では、外来牧草

種に代わって法面緑化に使用されるヨモギについて、遺伝的に異なるものを国内外から導入することによって生じるヨモギ在来系統の遺伝的攪乱問題にも取り組んでいます。



法面の緑化植物として用いられるヨモギ

昨年4月に植物防疫法が改正され、作物保護の目的に限定はされていますが、ようやく日本においても雑草が「ペスト」として位置付けられることとなりました。また同じく昨年4月に外来生物法も改正され、国、都道府県、市町村、事業者及び国民に対する責務規定が創設されるなど、各主体の管理責任が明確になりました。こうしたことから、雑

草問題を放置してはいけないという意識が国民の中に今後徐々に広がっていくことが期待され、当NPOの活動の重要性もさらに増していくと考えています。

京都大学雑草学研究室は、現在教員2名（10月1日より3名）、学生は社会人博士を含め博士課程6名（うち留学生1名）、修士課程10名（うち留学生1名）、4回生4名が所属しています。最近では雑草管理に直接関係する職に就く人はそれほど多くはありませんが、雑草問題を科学的に解決できる人材を育成していく当研究室の責務は大きいと考えています。今後とも、農業生産現場のみならず、人の生活圏も含め、そこで問題となる雑草について基礎的な知見の蓄積に努めるとともに、問題解決能力に長けた人材の育成を目指し、研究・教育活動を続けていきたいと考えています。



雑草学研究室のある京都大学農学・生命科学棟
(京都市左京区北白川追分町)

編集後記・募集

もう9月も終盤となりますが、まだまだ暑い日々が続いています。つい先日、秋分の日がありましたが、こう暑い日が続くと、まだまだ夏、という感じがします。それに対して、体感できる秋の期間が年々短くなっているようにも感じます。四季の有様が変わっていくことに一抹の寂しさもありますが、その移り変わりに対して身の回りの植物、特に雑草がどう反応して変わっていくのか、少し楽しみにもしている今日この頃です。

さて、ニュースレターも今回で15号目となりました。次回、第16号（12月刊行予定）につきまし

ても、会員の皆さまのご協力を頂きたく、下記のコーナーへのご投稿をお願いする次第です。

- ・テーマ“困っている雑草”について、意見や技術情報など
- ・自由投稿：日頃の気づき、主張したいこと、技術・文献紹介等
- ・所属団体・企業の紹介

今号またはこれまでの記事についてのコメント、質問なども歓迎します。

ご連絡先：佐治健介 (k-saji@bousou-ken.org)

ページ編集：宮井駿（京都大学雑草学研究室院生）